

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題 『プレゼンス・アフリケーヌ』研究 新たな政治=文化学のために」2017年度 2017年度第3回研究会（通算第8回目）／科学研究費補助金基盤研究(B) 「世界文化〈資本〉空間の史的編成をめぐる総合的研究：アフリカ・カリブの文学を中心に」第2回研究会
報告書

2017年度第3回研究会（通算第8回目）

日時：2018年3月18日（日）13:00-17:30, 2018年3月19日（月）10:00-17:00

場所：神戸大学六甲台第2キャンパス人文学研究科A棟・C棟

参加人数：13名

プログラム

3月18日

佐久間寛（AA 研所員）

「趣旨説明 文化誌研究から文化<資本>研究へ——P.カザノヴァ『世界文学空間』を手掛かりに」

中村隆之（AA 研共同研究員, 大東文化大学）

「国際シンポジウム「プレゼンス・アフリケーヌ」研究および今後の研究プロジェクトに関する報告」

全員

打ち合わせ

3月19日

廣田郷士（パリ第8大学）

「ネグリチュードへのもう一つの文学的アプローチのために？—ネグリチュードにまつわる言説をめぐって—」

林裕哲（一橋大学）

「第5回パン・アフリカ会議と<アフリカ>の解放—パン・アフリカニズムからみた戦後世界」

全員

全体討論

概要

科学研究費補助金基盤研究(B)「世界文化〈資本〉空間の史的編成をめぐる総合的研究：アフリカ・カリブの文学を中心に」（以下「CC 研」）との合同により、共同利用・共同研究課題『『プレゼンス・アフリケーヌ』研究 新たな政治=文化学のために』（以下「PA 研」）2017年度 2017年度第3回研究会を上記の日時・場所において開催した。以下、概要を報告する（敬称略）。

はじめに佐久間寛（AA 研）が「文化誌研究から文化<資本>研究へ：P.カザノヴァ『世界文学空間』を手掛かりに」というタイトルのもと趣旨説明をおこなった。P.カザノヴァの『世界文学空間』の検討を通じて、文化誌研究を主題とした PA 研と文化資本研究を主題とした CC 研との交点を確認するとともに、CC 研においてはとくにテキストより「文化<資本>の史的編成」というコンテキストを重視するとの方針が示された。

つぎに中村隆之（大東文化大学）が「国際シンポジウム「プレゼンス・アフリケーヌ」研究および今後の研究プロジェクトに関する報告」というタイトルのもとで報告を行い、これまでの研究成果の総括と、PA 研第二期および CC 研の今後の計画を明らかにした。

翌日は、大学院博士後期課程在学中の若手研究者 2 名による報告が行われた。まず、廣田郷士（パリ第 8 大学）は、「ネグリチュードへのもう一つの文学的アプローチのために？：ネグリチュードにまつわる言説をめぐって」というタイトルの報告を行い、これまで政治的・集合的運動の脈絡で理解されがちだったネグリチュードの作品群を、個別の作者による文学的・私的な表現行為という次元から抜本的に捉えなおす視点を打ち出した。つぎに林裕哲（一橋大学）は、「第 5 回パン・アフリカ会議と<アフリカ>の解放：パン・アフリカニズムからみた戦後世界」というタイトルの報告を行い、イギリスにおけるパン・アフリカニズムの転換点となる第 5 回パン・アフリカ会議の特質を、指導者・参加団体の構成や宣言文から丹念に解き明かした。

各報告後には参加者全員による質疑応答の時間を設け、それぞれにおいて活発な議論が交わされた。また最終討論においては、研究会の方向性や活動内容にまで踏み込んだ意見交換が行われた。最終的には予定を 1 時間を越えての閉会となった。

（文責：佐久間寛）